氷上の人

誘ふもの何なるも歩みゐて湖の面に染
む他はなし

氷割りて垂らせし糸に来るかも知れぬ魚をた
のめり頭布ふかく

氷の下の魚釣り上げてたちまちに凍るを並べ
低き冬の漁夫

疲せし魚氷の如うへに設置し凍湖一面の神の食卓

斎藤史

事つねに飯えて紫色の唇なせし神数尾の凍魚に
黄昏色の指を下す

冬の神食しく漁夫も食し・湊水魚獲組合の謀
裂けてつくろはず

足裏の感覚失せて去る漁夫こころやさしけれ
ば倒立もせず

肩ゆがにそびやかすを表情とし漁夫ら感す
湖より放たるるなき一生